



“したたか” カザフスタンは 資源羊の夢を見るか？

アルマティ出張所 祐成 雄司
(2010年4月帰任)

わが出張所のあるカザフスタン共和国アルマティは、人口一三八万人、国内人口の約一〇%の商業都市です。もともとこのアルマティは一九世紀にロシアの進出を受け、ロシア人の次のターゲットであり最も激しい抵抗が予想された隣国ウズベキスタンへの攻撃拠点都市としてロシア人の街がここに造られました。

一九九一年のロシアからの独立後も、一定のロシアの影響を残すと共に、ロシア人人口も三〇%弱を維持しています。そのような背景もあり、カザフ語とロシア語が公用語とされ、外国人との商談はロシア語を主に活用します。これは外国人がロシア語を理解する場



アルマティの冬景色

合が多いからという理由もありますが、どうも込み入った話はカザフ語では表現ができないからとも言われています。一方で外国人に聞かれたくない秘密会議では急にカザフ語に切替える器用さとしたたかさを見せます。

カザフを良く知る出張者や協力企業の皆さんが、金科玉条のように話されるカザフでのビジネスの鉄則は「カザフ人の気が変わらぬうちに決めてしまえ！」で間違いないでしょう。カザフは歴史的にも外部の流入に武力対抗せず、一二世紀には中国系遊牧民に、一三世紀にはチンギスハーン率いるモンゴル遊牧民に対して、そして一九世紀にはロシアの進出を早くも受けたに



アルマティ名物うどん
“ラグマン” (写真左)

カザフ風肉煮込みラザニア
“ベシバルマック” (写真下)



もかわらず、歴史的に上手に生き残った民族です。この辺りは現在の全方位資源外交の巧みさにも裏付けられます。

さらに遊牧騎馬民族の性格で、将来への布石より目の前の御馳走、限りなく近未来の喜びの追求の発想です。今日の“ラグマン”に満足しようとも隣村にうまい“ベシバルマック”があれば、そちらに心を奪われ、最後の瞬間まで目まぐるしくその趣向が変遷する傾向があります。

今後さらに同国でのビジネスを推し進めてゆくために、カザフ人の“したたかさ”に対抗すべく、日本人固有の“しなやかさ”で勝負です。



仲間との乗馬